

Q36. 流水型ダムにより、川の水の濁りが長期化するのではないのでしょうか。

- 常時、流水を貯留することで土砂が堆積しやすい貯留型ダムと異なり、流水型ダムについては、平常時は水を貯めず、通常の川の状態であることから、流入水と同じ水質を維持しやすいと考えられ、濁水の影響についても、貯留型ダムに比べて軽減されると考えられます。
- ただし、洪水調節に伴い洪水調節地内に土砂が堆積した場合、出水後の後期放流、中小洪水時及び高降雨強度時などの一定の状態においては、堆積した濁質が再浮上し、濁度が一時的に増加する可能性が考えられます。
- そのため、今後、洪水時の採水・水質分析調査や、濁度計測機器による濁度自動観測、複数の簡易水位計の設置による連続的な水位観測など、現地の調査・観測データを用いて、川辺川の特徴を適切に反映した水質や土砂動態等のシミュレーションを実施します。
- また、環境影響が小さくなるよう試験湛水方法、ダムの放流設備等の構造やダムの運用方法等の工夫を検討するとともに、環境影響評価の手続きにおいて、必要な調査・予測・評価を行い、環境保全措置や配慮事項について検討を行い対策を実施します。